

令和 7 年 5 月 30 日

令和 6 年度 特別の教育課程の実施状況等について

広島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
広島大学附属三原小学校・中学校	国立大学法人広島大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
広島大学附属三原 小学校・中学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/kyoikukateitokureishiteiR6

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
広島大学附属三原 小学校・中学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/kyoikukateitokureishiteiR6	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/kyoikukateitokureishiteiR6

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている ☐ 一部、計画通り実施できていない ☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している ☐ 実施していない

＜特記事項＞

特例を実施している小学校、中学校及び特例に関係している幼稚園の保護者に対して、「幼小中一貫教育研究だより」を配付し、この中で教育課程特例校としての授業実践を報告している。併せて、この研究だよりについて、保護者アンケートを実施し、特例校の取組について肯定的な評価を得ている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

特別の教育課程の編成・実施し、幼・小・中 12 年間を見通したカリキュラムの実施等により、育成を目指す資質・能力について、概ね育成できている。

また、評価基準表の作成により、教員間での統一した見取りができるようになり、子供達の変容を評価するだけでなく、カリキュラムの課題や問題点を上げ、改善につながるような体制がとられている。

特に、全国学力・学習状況調査、心理テスト等を基に「レジリエンス」の育成に関わる「受容と共感」を育む取組として、教師の子供への関わり方を整理し、学校全体の取組につなげている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

幼・小・中の 12 年間を関連付けたカリキュラムの実践及び資質・能力系統表（評価基準表）の活用により、全国学力・学習状況調査において、小学校で令和 6 年度は、令和 5 年度より全国平均が低下する中でも国語で+3 点、算数で+7 点と得点が伸びている。子供たちにとって学年段階での目標となる基準が明確になることで、教師はどのような子供たちの姿を目指せばよいかが明確になっていることが結果に結びついていると考えている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

国立大学附属学校は「公立学校のモデル」となることが求められており、公立学校の課題の解決に結びつく提案、提言、モデルの提示を行う必要がある。12 年間全体だけでなく、他の小学校、中学校でも取り入れることが可能な短期（2、3 年間）に焦点を当てた取組など、より広く活用ができるような取組として提案を工夫する必要がある。